

アンケートに関する意見と対応について

＜第 1 回検討委員会での指摘事項＞ 第 1 回検討委員会が出された主な指摘事項は以下のとおり。

項目	ご意見	対応
対象者	・全学年に聞いたほうがいいのか。	・回収率 50%と想定した場合、母集団（約 13,000 人）に対して必要なサンプル数は今回の対象者数で抽出可能。
	・幼稚園・保育園など未就学児の保護者も対象にしてはどうか。 ・子供も対象にしてはどうか。	・保護者アンケートに、「お子様に様子を聞きながら回答してください」という形式の設問を追加。 ・今後、基本方針策定後や基本方針のコンセプトが固まってきた時点等で、追加のアンケート実施や意見把握の機会を設けることについても検討する。 ・子どもや学生の参画の一環として、県立小田原城北工業高校建設科・デザイン科の 3 年生と「学校における居場所の空間デザイン」をテーマとした共同研究を行い、2 月頃に提案発表を実施予定。
設問内容	・「学級数（学校規模）について」の設問では、現時点での定義を明確化しておく必要がある。	・国の示す標準規模について、補足説明を加筆。
	・通学時間は、手段にかかわらず聞いていることを明記する。45 分以上の場合、上限を答えてもらうようにする。	・45 分以上については、自由記述にて上限を記入。
	・「学校施設の目指す姿について」の設問では、どのように感じているか（満足・不満足など）を問う形式にしてはどうか。	・4 段階評価形式や複数選択形式を主体に変更。
体裁・見せ方	・何のアンケートかパッと見てわかるような導入ページの工夫	・周知用チラシで対応。
	・イラストや箇条書きなどで読みやすく、取り組みやすくする工夫	・導入の文章を短縮し、イラストも配置。
	・所要時間を書く	・冒頭に明記。
	・途中までの回答でもそこまでは反映されることを明記する	・冒頭に明記。（Google アカウントにログインしている場合のみ）

＜アンケートの目的と結果の活用について＞

- ・ 本アンケートは、子供が通っている／関わっている学校の現状や、望ましい学級数、通学時間の許容範囲などについて、保護者、教職員、地域の方の考えを広く確認する意識調査として位置付けるもの。
- ・ その上で、学校・地域による違いをクロス集計・分析等により明らかにするとともに、自由記述から回答者の考えを掘り下げて把握する。
⇒ アンケート結果をもとに適正規模・適正配置の定義や学校の再編等を決定するものではなく、あくまで、今後の検討の参考資料として活用する。
- ・ 実施時期は当初予定通り、夏休み期間中とし、アンケート結果を今後の検討に活用できるようにする。